

平成29年度病害虫発生予察指導情報  
対象病害虫：アワヨトウ（水稲、野菜・花き等）

平成29年6月30日  
鳥取県病害虫防除所

## 1 情報の内容

6月27～28日に県内の一部の水稲および野菜ほ場において、アワヨトウ幼虫の加害が確認されました。

今後、他の地域、作物でも同様の被害発生が懸念されますのでほ場の状況に注意して下さい。

## 2 防除上注意すべき事項

### (1) 水稲

ア 周辺でアワヨトウが多発している地域では、幼虫の発生が一旦終息するまでは場に水を張って幼虫の侵入を防ぐ。既に幼虫が水田へ侵入している場合においても、水を張ることで中心部への被害拡大を防ぐことができる。

### (2) 野菜・花き

ア スイートコーンで幼虫の発生が認められる場合は、トレボン乳剤（1000倍、収穫7日前まで、4回以内）またはゲットアウト WDG（3000倍、収穫7日前まで、3回以内）により防除を行う。

イ その他の野菜・花きで発生が認められる場合は、農薬の使用基準に従い、ヨトウムシ類に適用のある薬剤により防除を行う。

### (3) 果樹等

ア ナシ園でも樹上に幼虫が這い上がっている状況が確認されているので、食害が観察される場合は、防除対策について関係機関に相談する。

## 3 【参考】アワヨトウの発生生態

（農文教 新版原色作物の病害虫診断および原色病害虫防除診断編等より）

(1) 幼虫が地表近くで越冬するが、本県で多発する場合は長距離移動で飛来した成虫によるものと推察される。

(2) 幼虫は6齢をへて蛹となる。若齢幼虫の体色は淡緑色で、昼夜の別無く食害する。中齢幼虫以降、昼間は葉の間などにひそみ、夜間に活動する。老齢幼虫の体長は45mm程度に達し、体色が灰緑色から黒色まで変化する。一般的に、少発生時の幼虫の体色は灰緑色、多発時は黒色である。体にはっきりとしたタテスジが通り、頭部

はミカン色で黒い八の字型の斑紋がある。十分成長した幼虫は土中で蛹化する。

(3) 卵期は約7日、幼虫は6齢を経て20～30日で蛹化、10～15日で成虫になる。現在の発生は老齢幼虫が主体であるので、次世代幼虫の食害は7月下旬頃から発生すると見込まれる。

(4) 一般にイネ科作物の害虫として知られるが、ソバ(タデ科)、ダイズ(マメ科)等も食害する。また、室内飼育ではそれ以外の不適當な食草でも生育できることが確認されているので、他の作物でも食害状況に注意し、必要な場合は防除を行う。



写真 アワヨトウ幼虫